

「三重の木」で家を建てた人たち

実例集
Vol. 7



「三重の木」利用推進協議会*



1

四日市市 Sさん邸

木の空間にこだわり雑貨が映える 若い夫婦のパッシブ・ソーラー・ハウス

木を基調とした室内に、アンティーク風のランプやフック、ガラス窓がアクセントを添える。「県内外の雑貨屋を巡ったり、ネットで探したり、ほとんどが私たちが選んだものです」
こだわりやの施主夫妻は、自然素材やエコロジーに力を注ぐ桑名の建設会社を選択。夫妻のアイデアや希望が活かされた、とっても住み心地のいい家が完成した。

玄関ドアは、ステンドグラスがはまる赤い一枚板製。一部吹き抜けのリビングは、造りつけの家具で、キッチンとやりわり仕切られている。壁には調湿効果のある珪藻土を。柱にはヒノキ、床には足当たりがやさしいスギの無垢板が使われ、住む人への心遣いが感じられる。

二階には将来の子ども部屋と、ロフト付きの寝室がある。ロフトは収納とともに、屋根のパネルで集めた太陽熱を、床下へと送るパッシブ・ソーラー・システムのダクトを設置するスペースとなっている。

「吹き抜けがあるから、冬は寒いかも…と不安だったんですが、システムのおかげで、どの部屋も温度差がなくて快適です」

太陽熱を利用し、冬は全館をほの暖かく、夏は風呂のお湯取りや、放熱に切り替えるエコなシステムは、呼吸する木の家と好相性である。



1. ステンドグラスがはまる赤い一枚板の玄関ドア。
2. ガルバリウム鋼板と左官仕上げの外壁に、ベランダの木がアクセントを添える。
3. 施主のオーダーにより、通常の倍サイズとされた洗面所。こちらの床にもスギ板が張られ、スリットからほのかな暖気が立ち上る。

●設計・施工/株式会社松田建設 TEL.0594・24・9848
<http://www.matsudakensetsu.com>
 ●納材/三栄林産(株)
 ●建築坪単価 約65万円



吹き抜けのリビング・ダイニング。スギ板の感触が気持ちいい。



津市 Mさん邸

木と土の特質を活かすべく 木材のプロが建てた自邸

「家は買うものではなく、つくるもの。主要な材は実際に山で見定め、最適な時期を見計らって伐り出し、乾燥させました。それを、木の扱いを知る大工さんに委ねることで、安心して住める家が出来たんです」

オーナーは、素材生産や製材も行う材木店の三代目。自邸を建てるに当たり、木が本来の力を発揮できるよう『適材適所』を心がけた。

外観と色調を揃えた玄関は、御影石、格天井、ケヤキの上がり框と、とても贅沢な造り。

リビングとつづきの和室は、同じヒノキと土壁の組み合わせながら、土の色で雰囲気をはかりと違えている。一階には他に浴室、サニタリー、ダイニング・キッチンがあり、二階は男児三人の子ども部屋と寝室だ。

柱から壁、床や天井まで、総ヒノキ造りといつてさしつかえないが、「神社ではないのだから、スギも使ったほうがいい」というベテラン大工のアドバイスで、子ども部屋の壁面には素朴な風合いのスギが採用された。

マンションから引っ越して初めての夏は、思いのほか涼しく、エアコンの出番がほとんどなかったという。かつては夜中に何度か目を覚ました子どもも、今は朝までぐっすり。木と土壁の断熱・調湿効果のおかげだろう。



ヒノキと漆喰壁のリビング。奥の和室とともに、すべて竹小舞による土壁となっている。



ヒノキと萌葱色の土壁を組み合わせた外観。玄関にもこの配色が反復される。



1. 御影石、格天井、ケヤキ框とぜいたくなつくりの玄関。扇を象った格子窓は、たんなる意匠ではなく、裏手にあるダイニングへの採光と通風を担う。
2. 子ども部屋にビルトインされたクローゼットは、スギの柵目と板目の組み合わせ。
3. ベランダを覆う深い軒。木部を雨から守るとともに、夏場は涼しい日陰をつくってくれる。不意の降雨にも、干し物の心配をしなくていい。

●設計・納材・施工/丸一木材 TEL.059-265・6205
●建築坪単価 約66万円(設計・監理別)

3

津市 Hさん邸

伝統構法の技をちりばめた 木と漆喰壁の蔵のような家

「古い町並みで土蔵に出会うと、何となくいいなとは思ってたんですが、まさか自分がそんな雰囲気の家に住むとは、思いもよらなかった」
黒い外壁に、スギ板を要所に配した蔵風の新居を見上げながら、オーナーは感慨深げに言う。
住まいを建てるにあたり、Hさん夫妻は、伝統構法を得意とする大工棟梁（夫人の実兄）に相談したところ、「みえ木造塾」でかつて共に学んだ建築家を紹介された。

床・壁・天井すべてスギ板張りの玄関から、漆喰壁がすがすがしい廊下を通り、ケヤキの大黒柱が据わるリビング・ダイニングへ。

「ダイニングとキッチンの床は、同じ無節のスギ板ですが、色を違えてあり、キッチンには赤身を集めました」

と棟梁。工房で板を色分けし並べてから、裏側に順番を記し、その通りに現場で張ったというから、凝っている。

ケヤキ板の天井に、磨き丸太が走る和室は、建具がすべて同じスギを材としており、木目や色合いが見事に揃っていて美しい。

「木の家は冬場、暖かく感じられます。スリッパなしで歩き回れるのも気持ちいいですよ」

夫人を喜ばせた床板は、十二ミリと三十六ミリの二枚重ねのスギ板で、断熱性は抜群だ。



1. 黒い外壁に、スギ板ヨロイ張りの玄関壁、戸袋を組み合わせ和を演出。
2. 自然な曲がりを活かしたままダウンライトを埋め込んだリビングの照明。
3. ケヤキの天井を磨き丸太が走る和室。擦り上げ障子などの建具は、一木から材を得てつくられており、木目が揃って美しい。
●設計／設計工房NEXT TEL0598-30-5546 <http://www.kobo-next.com/>
●施工／中村建築 TEL0598-58-1696
●納材／松下製材・中勢森林組合ほか
●建築坪単価 約63万円（設計・監理別）



現しのスギ構造材と、床・天井板、漆喰壁の組み合わせは、まるで土蔵のよう。夏の涼しさは格別だ。

4

津市 Tさん邸

濡れ縁、いぶし瓦、木格子… 京の町家をイメージした和の家



1. 日本瓦と木の組み合わせが、落ち着いた風情を見せる。格子から灯りがもれる夕刻は、料亭さながらの趣だ。
2. 玄関の框を上がって左手が客用。脇から、暖簾をくぐってたたき土間を行くと、ダイニングに通じる家族用の裏玄関となる。
3. トップライトが開けられた北側のウッドデッキは、バーベキューや、愛犬のシャンプーなど、バックヤードとして重宝する。
4. 一枚板テーブルの置かれたリビングから、和室方向を見る。

◎設計・施工／寺西建築株式会社 TEL.059・245・3366

http://www.tanoshiya-teranishi.com/

◎納材／三重の木利用拡大センター

◎建築坪単価 約70万円(参考)



いぶし瓦の屋根、長い濡れ縁、縦ラインの美しい木格子…。京都の町家をイメージしたというT邸は、間口が広く、塀や柵で周囲と隔てられていないため、重厚なのに、どこか人懐こい。「日本家屋独特の水平垂直が好きなんです」

施工者でもあるオーナーは、完成した我が家を満足そうに見やる。

引き戸を開け、玄関のたたき土間に入るや、ふわっと広がる木の香り。天井や柱、腰張りなどビノキをメインに、梁にはスギ、上がり框と床にはナラを使用。そのほとんどが県産材だ。

「ふだんは裏玄関を利用して、こちらはお客様用。こうすると、玄関が散らからないので」

和室とつながるリビングは、屋根に沿った勾配天井に、十文字のスギ梁が走る。

廊下をはさんで、南面にリビング、和室、子ども部屋、北面にダイニングキッチン、洗面所、浴室、寝室。途中の階段を上ると、小屋裏ロフトへと至る。

「客間とプライベート空間では、材料で雰囲気を変えてあります。たとえば壁なら、客間にはプレーンな漆喰、子ども部屋や寝室には温かみのある和紙というふうに」

玄関よりも、濡れ縁から客が訪れそうなこの家には、自然と人が集まってくるにちがいない。



5

松阪市 Oさん邸の場合

伝統の技と現代感覚が融合する 健康的な木と土壁の家

平板いぶし瓦の端正な屋根、焦げ茶色の自然塗料で仕上げたスギの外壁、ビルトインガレージから続く埋け込みのアプローチ…。Oさんの住まいは、住宅地の景観に溶け込みつつ、静かに存在感をアピールする。

「妻がアレギー体質だから、健康的な住まいは絶対条件でした。五年間、色々探し回りましたよ」

施主夫妻の理想を叶えたのは、製材や木工家具の知識にも富む津の建築家である。

構造はもとより、内外装のほとんどに県産材を使用した全室土壁の住まいは、体にやさしいだけでなく、頑丈で地震にも強い。直営工事のため、天然乾燥の良材で、通常より安価に建てられるのも、夫妻の決め手となった。

吹き抜けのリビングは、漆喰壁の白が清々しい。階段や二階の手摺りは、木とスチールの組み合わせ。リビングから一段スキップアップした和室は、天井は網代風、床の間は朱色の土壁にするなど、伝統の技と現代感覚が巧みに融合している。

建物の地下部分にヒーターパネルを埋設し、夜間電力を利用して地中に熱を伝え、そこから輻射熱で家全体を暖める「サーマ・スラブ」を導入しているので、冬もすこぶる快適という。木の呼吸を妨げない、賢い住まいである。



吹き抜けのリビング・ダイニングと、スキップアップした和室。
ダイニングテーブルやイスも、無垢材製をチョイス。



1. 夫が日本刺繍に打ち込めるよう、三面に障子を配して、フラットな採光を得るアトリ。
2. 周囲に威圧感を与えないよう、道路側の軒を低くしたスギ張りの外観。
3. 和風建具のような間接照明が斬新な玄関。上がり框にはブラックチェリーが採用された。

◎設計/SSD建築士事務所 TEL.059・268・1303
http://www.geocities.jp/wood_pro_ssd/
 ◎施工/落合建築 TEL.059・268・0071
 ◎納材/紀平木材
 ◎建築坪単価 約60万円(設計・監理別)

6

伊勢市 Hさん邸

たたき土間、かまど、囲炉裏… 小さくて、少し手間のかかる家

玄関に足を踏み入れると、懐かしい空間が迎えてくれた。現しの木組み、漆喰壁、たたきに座すかまど、上がり框の先には囲炉裏が…。地域の木と職人による家づくりを推し進めてきた建築家が、二十年余の経験を活かして建てた自邸は、延べ床わずか二十七坪の、板倉造りの実験住宅。

「コンセプトは、できるだけ小さくて、少し手のかかる家。高さや広さが体に近いと手入れしやすいし、至れり尽くせりより、少々不便なほうが工夫も生まれるでしょ」

建材は、奥伊勢や東紀州の産地へ出向き、柱や床のヒノキ、梁や壁のスギを丸太買いで調達。建具も建具師による県産ヒノキ製だ。土間や壁、かまどは付き合いの長い左官に依頼。スギの赤身を使った風呂桶も、大工による特注品だ。

一階は板間の居間と水回り、二階は二間つづきの和室と、間取りは至ってシンプル。

「室内の温度と湿度は木と土に頼って、日ざしや通風は軒の深さや開口部でコントロール。足りない分だけエネルギーを使う『脱エネ』の家を、住みながら検証します」

小さくて手のかかる家は、日本人の暮らしが本来どうあるべきかを教えてくれるようだ。



1. ヒノキ床の居間。開口部の建具は全て戸袋に収納可。
 2. 天井高を低くした二階和室は、梁や桁、棟木に手が届く。
 3. 隣接の既設住宅と調和させた外装は、総スギ張り。雨から木部を守るため、軒が深くとられ、縁側風にも使える。
- 設計/つくる研究所 TEL.0596・26・3022
<http://www.tukuruken.com/>
 ●施工/萩原建設 TEL.0596・36・0182
 ●納材/速水林業・松下製材ほか
 ●建築坪単価 約65万円(設計・監理別)

かまど、囲炉裏、伊勢ミガキの壁と見どころの多い玄関。暖壁のコンクリートは、表面を一部はつって意匠とした。

名張市Iさん邸

薪ストーブと吹き抜けを中心に 家族が一体になれる子育ての家

南東方向に開け、名張の町を一望できる高台の角地。視界や日照を遮るものは何も無い。この得難いロケーションを手に入れたと思ったとき、Iさん夫妻の家づくりが始まった。

工務店と何度も打ち合わせを重ねた末に、設計プランを固め、着工後は壁の漆喰塗りに家族で参加。庭の木塀には、自らヒノキ板を張ったという。ハウスメーカーでは、こうはいかない。玄関を開けると、活発な二人の男の子が迎えてくれた。冬なのに、二人とも素足だ。

「無垢の床板が気持ち良いみたいで。僕も普段は裸足なんですよ」

カントリー調の雑貨集めが趣味の奥様も、スギの年輪や節の風合いがお気に入りだそう。間取りの特徴は、廊下や間仕切りを最小限とし、屋内をほぼモノスペースとしているところ。その中心となるのが、薪ストーブと、その煙突を屋根まで導く吹き抜けだ。冬場は、これ一つで全館暖房に。夏は高台を渡る涼風が、吹き抜けを自在に行き来して快適そのもの。

将来子供部屋となる二室には隔壁とドアがあるものの、吹き抜けに面して窓が設けられているので、室内外の温度変化は少なく、中においても気配は階下へ伝わる。

のびのびと子育てするには、こんな家がいい。



階段上からリビング・ダイニングを望む。現しの木組みが力強い。



女間方向からリビング・ダイニングを望む。家の中心に設けられた薪ストーブと吹き抜けが、全館を暖める。



1. 敷地の割に建坪は小さめだが、二層のウッドデッキ、南北のガレージなどで、広々と機能的に暮らせる。屋根には、ソーラー発電パネルと薪ストーブの煙突が。
2. 二階の吹き抜け横に設けられたワークスペース。広くはないものの、隔壁がないのでゆったり使える。子供たちが大きくなったら、ここで勉強するのだろうか。
3. 垂直面を漆喰塗り、水平面をスギ張りとした玄関。屋内は、全てこのトーンで統一。

●設計・施工 / (株) 広島工務店 TEL.0595・65・3040

http://www.kiwacocoro.co.jp

●納材 / 丸重木材ほか

●建築坪単価 約68万円(設計・監理、外構除く)

間伐が適正に行われ、地表まで光が射す健康的な山林。



三重で家を建てるなら「三重の木」で

日本は国土の三分の二を森林に覆われた「緑の列島」です。わたしたちは身近にあった資源として、森林が産する豊富な木材で家を建て、暮らしてきました。

ところが、今や木材需要の約七割を海外からの輸入に頼り、国内の森林が持つ経済的機能は大きく失われています。

また、国内における木材生産の減少が基本的要因になって、森林の荒廃が進みつつあり、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化防止に寄与する二酸化炭素の吸収・貯蔵等の、森林の持つさまざまな機能が発揮できなくなっています。

それらの機能が十分発揮されるためには、木を伐って、植えて、育てるという緑の循環が必要です。かけがえない森林を守り育てるために、わたしたちができるのは、積極的に近くの山の木を使うこと。三重で家を建てるなら、品質の確かな「三重の木」で。

本冊子は、「三重の木」認証材を使って、認証工務店・建築家が三重県内に建てた住宅の施工実例集です。建築坪単価は、住宅の大きさや建築地によって異なりますので、あくまでも参考程度にお考え下さい。

「三重の木」利用推進協議会 <http://www.mienoki.net>

三重県津市桜橋1丁目104 TEL 059-228-4715 FAX 059-226-0679

「三重の木」認証業者